

今年もやります！「ふるさと日高応援特別」

日高町職員組合協賛ホッカイドウ競馬特別レース開催！！

今年で3回目となる、日高町職協賛の「ふるさと日高応援特別」レースの実施日程が決定しました。日高町職では、地域に向けた運動展開の一環として職員組合としてホッカイドウ競馬協賛レースを持つことにしています。既に各単組・総支部には、交流会の案内も届いていると思いますが、レースに合わせて交流会も開催され、ジングスカンを囲み、豪華賞品付きのミニゲーム等も行われます。(飲み物も各種用意します。)申し込みは6月25日までとなっております、多くの参加者を期待します。

☆7月5日(木) 門別競馬場(レース番号未定)

☆発走予定時刻 20時頃

☆レース名 「ふるさと日高応援特別」

昨年は全道各地の仲間の協力によりメインレースに続く2番目の24,728,700円の売り上げを達成しています。今年度もよろしくお祈りします。



レース後、勝利ジョッキーとの記念撮影です。

2012人事院勧告期の取り組みについて

6.19 人事院へ要求書を提出！！

☆第1次全国統一行動 6月19日

☆第2次全国統一行動 8月上旬

公務労協・自治労本部は昨年同様、2012 給与改定勧告を行わないことを方針化。しかし、現実的には勧告が行われることも念頭に置きながら、月例給与の維持・改善と一時金の支給月数確保を基本課題とし、慎重な検証と十分な交渉・協議、合意を求めている。

国公給与削減の地方への影響を遮断～ラスパイレス比較は意味を成さない～

国公は7.8%引下げが実施されていることから、地公給与の引き下げ圧力が強まると想定。自治労としては、国公給与の削減が実施されれば、ラス指数の給与比較は意味を成さないと総務省対策を強めているが、仮に従前と同じ手法で比較をすれば、2012年4月時点のラスパイレス指数は、総体的に平均約8ポイント自治体側が上昇することが予想される。国における措置はあくまでも臨時的措置であることも含め、自治労本部に結集して、総務省・国会対策等を強力に進めなければならない。

「ユニオンアカデミー」が開催されました。

～連合日高地協主催～

6月9日（土）、新ひだか町において連合日高地協主催による「第1回ユニオンアカデミー」が開催され、日高管内から約50名が参加し、うち自治労からは25名が参加しました。今年度の新入組合員を対象として催され、講師には連合北海道の皆川組織対策局次長を招き「労働組合の基礎Ⅰ」について、グループワークを行いながら進められました。

「いかに自分が伝えたいことが伝えられないか」が身にしみたトレーニングだったようです。この他に、憲法28条に基づく労働基本権団結権、伊呂波カルタを用いた組合用語など、ゲームを通じて学びました。各事業福祉団体（ろうきん、全労済）から



連合北海道 皆川組対次長

は、社会人としての心構え等に必要なお金の管理、保険の加入、自分自身の将来設計などについて説明を受けました。

参加者にはもれなく「お土産」が当たりました。

※お土産・・・開催文書に「終了後にお土産を用意しているようです」と記載をしたところ、基本組合の中では「お土産」イコール「物」と想像する方もいたようですが、今回は、もらって嬉し



伊呂波カルタを用いたゲーム

い「そば飯」でした。

米情報 避難に生かさず 原発事故直後 政府が汚染図放置

6/18 朝日新聞の第1面の記事です。（関連記事は2面にも掲載されています）

昨年事故直後の3月17日～19日、米エネルギー省が米軍機で放射線測定を行って詳細な「汚染地図」を提供したのに、日本政府は公表せず、住民の避難に活用していなかったことが判明した。

外務省によると、測定結果を基に作製された汚染地図は3月18日と20日の計2回、在日米大使館経由で同省に電子メールで提供、外務省は直後に経済産業省原子力安全・保安院と文部科学省に転送。文部科学省と保安院はデータを公表せず、首相官邸や原子力保安委員会にも伝えなかった。

福島県の浪江町や飯館村などを含む福島第一の北西方向に30キロ超にわたり1時間あたり125マイクロベルトを超える高い線量の地域が帯状に広がっていることが判明。この線量は8時間で一般市民の年間被ばく線量の限度を超える数値。

政府が飯館村など計画的避難地区に指定したのは、4月22日。この地図情報は原子力安全委員会・文科相、政務三役にも伝わっていなかった。

